

センター紹介 岐阜大学総合情報処理センター

岐阜大学 原山美知子*

岐阜大学総合情報処理センターは、岐阜大学のメインキャンパスである柳戸キャンパスの中にあります。柳戸キャンパスは、岐阜市の中心街から長良川を渡って北西の田んぼの中にあつて、もともと湿地だったところです。長良川は水が清いということなどで全国的に有名ですが、確かに町中の流れでも飲めそうにみえるくらいです。小さい魚が足元を泳いでいたりして、夏の水遊びに恰好の場所ですが、川は川ですから、ときどき県外から来た人が事故に遭ってしまうのは大変残念です。また、柳戸キャンパスの北は裏手から飛騨山系につながる山々が始まっていて、そのせいか、6月から夏場にかけてはよく落雷があります。

本センターは、1964年に学内共同利用施設として電子計算機室が発足し、75年に名古屋大学と専用回線で接続しました。81年、柳戸キャンパスへ統合移転し、83年には情報処理センターが発足しました。また、医学部・附属病院のある司町キャンパスには情報処理センター分室が設置されました。96年、文部省の省令化施設として総合情報処理センターが発足し、現在に至っています。

発足以来、他の情報処理センターと同様に、主に学術計算用の大型計算機のサービスを提供してきたセンターですが、92年、SINETに接続後、学内LANの整備が徐々に行われて、UNIXワークステーションによる情報ネットワークサービスが重要となりました。97年3月のシステム更新では、学術研究システムに並列スカラーコンピュータ、ベクトルコンピュータ、マルチメディア環境の導入を果たしました。また、全学向けの情報処理教育システムのサービスが強化されました。現在、センターのサービスの柱は、学術研究システム、情報ネットワークサービスシステム、情報処理教育システムの3つになっています。

学術研究システムでは、スカラー並列計算機として、SUN Enterprize7000(UltraSPARC- 64bit 16CPU, 2GBMM)が設置されています。ベクトル計算機は、Fujitsu VX1(2.2Flops, 2GBMM)です。また、ファイルサーバを置き162GBのHDをユーザに提供しています。主なソフトウェアは、数式処理: Mathematica、MapleV、統計処理: S-plus、構造解析等: ANSYS、衝撃解析: DYNA-3D、NIKE-3D 反応性流体解析: KIVA3、 α FLOW、分子軌道計算 GAUSSIAN94 などです。マルチメディア関連では、SGI Indigo2 Maximum IMPACT 2台、O2 2台、コマ撮り録画装置として ACCOM を置いています。マルチメディア、可視化ソフトウェアとしては Iris Explorer、AVS を提供しています。

情報ネットワークサービス関連では、94年にFDDI準拠ネットワークを基幹とするLANが敷設され、センターで情報ネットワークサービスを開始しました。96年に基幹622MbpsのLAN Emulation方式ATMネットワークが敷設され、現在2つのネットワークがデュアルに稼働しています。情報ネットワークサービスシステムは、これらのネットワークを管理するもので、6台のワークステーションが分散的に管理しています。岐阜大学には4つのキャンパスがありますが、柳戸を中心にして、司町キャンパスと1.5Mbps、その他のキャンパスとは192Kbpsで接続しています。対外的には、名古屋大学と柳戸が1.5Mbpsで接続しています。また、工業技術センターなどの近隣組織に接続サービスを行っており、現在、4組織が接続しています。このような情報ネットワーク環境を支える組織は、岐阜大学キャンパスネットワーク技術専門委員会です。各部局から選出された委員からなり、主に情報ネットワークに関する技術検討および分散管理を行い、変化するネットワーク事情に対応しています。

情報処理教育システムでは、柳戸地区の135台を中心とした185台のパーソナルコンピュータを置き、全学に対して、情報処理教育の環境を提供しています。内容は、情報ネットワーク(電子メール、WWW)、コンピュータリテラシ(ワープロ、表計算、描画)、コンピュータ言語(C、FORTRAN、Visual BASIC)、UNIXワークステーションのネットワーク利用などです。

*総合情報処理センター専任助教授、岐阜市柳戸1-1、TEL/FAX +81-58-293-2714、harayama@info.gifu-u.ac.jp

総合情報処理センタは、岐阜大学に籍をもつ学生・教職員は誰でも利用できます。登録申請は、主に学部学生用、教職員/4年生/院生用に分かれており、学部学生は情報処理教育システムを利用することができます。教職員/4年生/院生用は、学術研究システムおよび情報ネットワークサービスを受けることができます。事務部のコンピュータ利用が進む中、組織名や管職名でも登録申請できるようになりました。また、年1、2回広報を発行しています。定期講習会では主にシステム使用方法のインストラクションを行い、年2回の講演会では、他の大学や企業の方を講師に招いて、コンピュータ技術動向を講演していただいています。

総合情報処理センタには、現在、センター長（兼任）、専任教官1名、技官3名、技術補佐員1名がいて業務に当たっています。しかし、多くの業務をこれだけのメンバですべてこなすのは難しいため、センタ協力員制度を設け、教官が総合情報処理センタに協力する体制が整っています。システム部門、ネットワーク部門、講習会部門、広報部門、WWW部門があります。毎週月曜日の午前中に業務ミーティングを開き、業務スケジュール、業務内容と問題点を整理し検討します。また、毎月、業者定例会を開いて問題点などを話し合い、計算機とネットワークの滑な運用を目指しています。

総合情報処理センタの建物は、農学部と工学部に挟まれた二階建てのこじんまりした建物で、83年に情報処理センタが発足して新営されたものです。一階には、事務室兼受付、オープン入出力室、共同利用の端末室、センター長室、二階には大型計算機用のCPUルーム、特殊機器室、会議室、マニュアル庫、センター協力員控え室などが設置されました。

今年度はさらに建物が増築されることになりました。新棟は三階建てで、一階に受付、サービス紹介コーナー、図書雑誌閲覧コーナーを設置し、学生や教職員が気軽に立ち寄って、ソフトを体験したり、情報収集できるような場所を提供したいと思っています。二階にはワークステーション主体で、センターマシン講習室、研修室マルチメディア制作室、マルチメディア実習室を置く予定です。三階は、南側全体が学生演習室で、主にパソコンを置き、コンピュータリテラシーから言語まで全学の学部生向け教育に利用する予定です。増築に伴い、現建物の玄関を広げ、天井もやりなおすことになりました。周辺道路も整備することになったので、現センタは今、ほとんど孤立状態です。それでもネットワークも計算機も止めるわけにはいかないので、センタ職員は嬉しい悲鳴をあげながら騒音、埃、振動、オーバーヒート、停電と戦っています。12月竣工予定で、遅くとも来春にはマシンや部屋の運用も落ち着くと思いますので、ぜひお立ち寄りください。